

火災対策

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

あわてて水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を断つ。



竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバーストといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。

竜巻注意情報

(気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます!

屋内では

- 窓から離れる。
- 窓やカーテンを閉める。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- 家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

屋外では

- 頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする。
- 物置や車庫、プレハブの中には入らない。
- シャッターを閉める。
- 電柱や太い木には近づかない。

雷対策

「雷」から身を守るには… 遠くで音がしたらずでに危険な状態です!

- グラウンドやゴルフ場などの開けた場所や、山頂などの高いところは危険!
- 電柱、鉄塔などの高い物体には近づかないように!
- 高い木の近くは危険! 2m 以上は離れてください!
- 姿勢は低く、持ち物は体より高くしないように!
- 建物や車の中は比較的安全な空間。
- 木造建築物の中では、電気機器や壁から 1m 以上離れば更に安全。
- 雷の活動が止み、20 分以上経過してから安全な場所へ移動しましょう。

レーダー・ナウキャスト

(降雨・雷・竜巻)
(気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

